

2023 年 6 月 16 日

私立大学図書館協会 2023 年度西地区部会総会「承合事項」報告書

京都外国語大学附属図書館

このたびは、私立大学図書館協会 2023 年度西地区部会総会での承合事項にご協力いただき、誠にありがとうございました。短い調査期間にもかかわらず、172 館の加盟館から回答をいただきました。

今回の承合事項の結果について、下記の通りご報告いたします。

承合事項「電子書籍の選書と運用について」（京都外国語大学）

【提案理由】

本学では電子書籍の所蔵タイトルを今後より一層充実させるには明確な選書基準や運用方法が必要であると考えています。

電子書籍については昨年度も承合事項の報告がされておりますが、選書と運用についてより詳しくお伺いさせていただきたく、提案しました。

【調査概要】

1. 調査対象 私立大学図書館協会西地区部会加盟校（247 館）
2. 調査期間 2023 年 5 月 11 日～5 月 31 日
3. 回答方法 Google フォーム
4. 回答状況 172 館（東海地区 31 館 京都地区 35 館 阪神地区 44 館
中国・四国地区 34 館 九州地区 28 館）
5. 回答率 69.6%

【回答結果】

1) 電子書籍の選書基準を設けていますか。

総回答 172 館

はい 20 館 (11.6%)

いいえ 152 館 (88.4%)

2) 電子書籍の選書基準を設けている場合、紙の選書基準と異なる点や策定にあたって注意された点をお聞かせください。

(主な回答)

「紙と同じ基準」

原則、紙の選書基準と同じです。
紙媒体の資料の選書基準に準じています。
基本的に紙に準じるが、紙と重複があっても購入する他、ガイドブックや就職活動向けの本なども広く購入することとしている。
紙媒体の資料の選書基準に準じています。
紙と同じ基準であるという意味での「はい」です。

「買い切り型」

買い切り型を選んでいる。
電子書籍を購入するにあたっての主な注意点は次のとおりです。契約モデルは買切型に限ること。商品設定されている最小限の同時アクセス数で購入すること。さらに本学の規程により購入対象1件ごとに相見積もりをとっています。
書架の狭隘化に伴い、買い切りタイプであり、ある程度のページ数が DL 可能なもの、かつ資格試験の問題集などを除く、永年保存にふさわしい資料は、電子書籍を優先して収集するようにしている。
明確な基準ではありませんが、資産登録をするため買い切りの資料を購入しています。(現在のところ、新学部設置時の一括購入のみ。洋図書はできるだけ電子 BOOK の購入を行いました。)
・テーマによるコレクションのうち、買い切りの電子書籍があれば電子で購入(省スペースのため)

「教員・シラバスとの連携」

下記の選書基準を設け、学科別推薦図書として各学科の先生より、「MeL」の「リクエスト機能」を用いて選書をしていただくようにしています。 その際には、「選書理由」も必ず入力していただくようにしています。 ① 複数の講義にて利用される書籍(教科書・参考書) ② 資格の問題集 ③ 就職活動関係の書籍

④ レポート・論文作成関係の書籍
⑤ ベストセラー
⑥ その他学生・教職員問わず利用頻度の高いとされる書籍
冊子体の方は、継続和洋図書や、学科別推薦図書、図書リクエストで、選書理由を問わず、本学教職員・学生が、書籍を選書(リクエスト)できる一方、電子書籍は、学科別推薦図書で、教員しか選書できず、また選書理由も必要となります。よって、教科書・参考書等、必ず利用頻度が高いとされるタイトルを導入してもらうようにしています。
発行後3年以内(シラバス掲載図書は5年以内)を目途に選書
シラバス掲載図書など利用が多く見込まれる資料、用語辞典など検索性が求められる資料、英語多読本など音声読み上げ機能が活用できる資料など、電子書籍のメリットを生かした選書

「紙と電子の重複」

○紙と同様に重複購入しない。
○紙版と同時期の出版年の電子書籍を選ぶ。
重複している資料は、基本的には購入しておりません。
同一タイトルが紙と電子で重複しないようにしている(但しシラバス掲載図書は重複もあり)。

「資料のジャンル」

旅行ガイドや多読本は電子を優先している。
ガイドブックや就職活動向けの本なども広く購入する
省スペースのため、毎年発行される参考図書は、あれば電子書籍で購入。

「利用頻度」

多くの利用見込みがあり、複数年に渡り利用価値のあるもので、関係する教員が、電子版が有効であると判断する資料を収集対象とする。
サブスク型については、消耗性の高いものを購入する。
利用の集中が予想される資料や、学外から利用が見込めそうな資料は電子を選びます。

「その他」

厳密な基準は設けていないが、年度初の図書館運営にかかる委員会で、全般的な購入方針を定めている。
明文化した選定基準などはありませんが、図書館選定分は館内の選書会で選定しています。

3) 購入図書が紙と電子の両方で出版されている場合、どちらを選択されていますか。

総回答 172 館

紙 114 館(66.3%)

電子 25 館(14.5%)

両方 33 館(19.2%)

4) -1 電子を選択されている理由をお聞かせください。

(主な回答)

「書庫の狭隘化、スペースの確保」

狭隘化対策、電子化対応のため
書架の狭隘化
書架の狭隘化対策とリモートアクセスによる利用促進のため
a.書架収容率の上昇が軽減されるため。b.利用にあたり場所と時間に制約されないため(特にコロナ禍において有効であった)。
配架スペースが限られるため、電子での購入を優先している。ただし、リモートアクセスなど利便性も高いため、主要なものは両方を購入する場合がある。
利用者や希望者の当該資料の使用に際して最適な選択を旨としていますが、紙又は電子のいずれでも当該使用に差し支えない場合は、当館の書架狭隘化の現状に鑑み、原則として電子を優先しています。
書架の狭隘化が深刻なため。また、紙の書籍と異なりアクセシビリティが高く、コロナ禍において重宝したため、電子書籍での資料収集にシフトしている。
書架の狭隘化解消のために電子を選択する場合があります。
書庫狭隘化対策のため
書架狭隘化対策と非来館型図書館を目指しているため
書庫の狭隘化のため
①狭隘化解消のため②利用者の利便性向上のため
収納スペースを気にする必要がないため。
省スペース、利便性

「資料の種類、内容、金額」

※紙媒体の購入の方が多いですが、資料によっては電子を選択する場合があります。 ・辞書、事典などの参考図書(電子書籍の検索機能との相性が良いため。) ・特に利用の多い学生向けの専門図書(電子書籍であれば、資料によってアクセス数を増やすことが可能であり、同時アクセス数が1の場合でも、1人当たりの占有時間が短時間で済むため。紙媒体であれば、複本の購入が必要。)
--

観光ガイド、就職・資格関係、継続購読していない雑誌のバックナンバーで電子媒体のものがあれば電子のものを購入しています。 その他の資料は紙を優先しています。
紙と回答しましたが、選択はモノではなく、内容で決めるようにしています。
紙と電子で価格差が少ない場合、左に加えてレファレンス資料の場合
毎年更新して発行される資料や購入要求者が電子を希望した資料は、紙の必要性が低いため
学生が学外(特に実習先)から利用することを考慮しているため。すべて電子を選択しているというわけではなく、金額や内容の更新頻度(白書や年報等)によっては紙を購入している。

「教員からの要望」

基本は「電子書籍」を選択するが、教員の希望により冊子体(紙)紙を購入する場合もある。
紙か電子かの選択は購入希望を出された教員にさせていただいております。

「シラバス」

シラバス指定図書は禁帯出の為電子を選択。他図書は購入依頼者が選択した方を購入しています。
シラバス掲載の参考書で電子版が入手可能なものはすべて収集する方針

「その他」

効率化、合理化のため
電子書籍の利用が少ないため、利用頻度から紙を選択している。
3)の質問の答えは、本学は、どちらともいえないが正解です。必ずしも電子を購入するのではなく、資料によって臨機応変に対応している。電子の方が、価格が高いため、歯学部は、2倍3倍だと難しい。利用度や場所を考え、洋書は電子にする場合がある。看護だと比較的安いので、図書の使途(実習利用等)などで電子を選択する場合もある。
ケースバイケースですが、本学は2キャンパスあるため、両館必要な場合は電子を優先する。

4)ー2 両方を選択されている理由をお聞かせください。

(主な回答)

「利便性」

教科書等 禁退出資料の一部は、利用者サービスのため紙と電子両方購入しています。 その他、利用が多い図書は両方購入しています。
上記の設問2)で回答したとおり、紙か電子かではなく、電子書籍のメリットを生かして、利用形態にマッチした資料を電子書籍で購入するようにしています。
利用形態に応じて選択できるように両方購入しているものが多い。

電子書籍を増やしたいと考える一方、電子より紙媒体へのニーズ(使いやすさ)が高く、また利用方法が異なることから、電子と紙媒体で同一内容であっても重複扱いはしないこととしている。
利用が多く見込まれる資料は、利用者に紙と電子から選択させたいため ※必ず「電子」ではなく、資料によって、「紙」「両方」も選択します
利用者の利便性を考慮して、電子も選択している。
利用局面、希望により選定している。ただし、両方で所蔵することはしていない。
利用者の利便性を高めるために、両方を購入することがある。 但し、シラバスなど両方購入していたが、利用状況・予算削減などにより、電子の購入を停止する方向。コロナ禍で電子書籍の購入機会が増え、利用も一定数あったが、今後は利用状況を見極めていく予定。 小説やエッセイなどの読み物、多読書テキスト、資格・就職用テキストなどは、電子図書館の別システムを運用。小説についてはベストセラーなど紙と重複するものも少なくない。但し、期間ライセンス契約のものが多い。
基本として、希望者が希望した媒体で購入しているので、書籍により異なる。 紙のみ、電子のみ、紙と電子、のパターンが存在する。 両方購入している書籍については、紙で購入後、理由があって追加で電子を購入する形が多い。 (紙+電子を同時購入は稀) ＜電子を追加購入する理由＞ ・複本が必要となった際の書架狭隘化対策として電子書籍を購入。 ・学外での実習時に利用するため、リモートアクセス、利便性を考慮し電子書籍を購入。
購入希望の内容による
注)「その他」の項目がなかったため、こちらに記入させていただきます。 購入希望図書に電子がある場合、価格を示して購入希望者に紙か電子かを選択していただきます。資料の内容や利用方法により両方を購入する場合があります。

「利用者の要望」

購入者の希望を優先
利用局面、希望により選定している。ただし、両方で所蔵することはしていない。
基本的には冊子体(紙)を購入しているが、電子書籍での購入希望が提出された場合には電子書籍を購入している。
紙/電子のどちらを希望するかは、リクエストに応じている。
基本として、希望者が希望した媒体で購入しているので、書籍により異なる。 紙のみ、電子のみ、紙と電子、のパターンが存在する。 両方購入している書籍については、紙で購入後、理由があって追加で電子を購入する形が多い。 (紙+電子を同時購入は稀)

<p><電子を追加購入する理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・複本が必要となった際の書架狭隘化対策として電子書籍を購入。 ・学外での実習時に利用するため、リモートアクセス、利便性を考慮し電子書籍を購入
<p>購入希望のあった形態を購入しており、どちらに重点を置いて購入するという方法ではないため。</p>

「図書館の選書基準、環境」

<p>電子においては紙との重複は複本とみなしていないため、基本的に和書の場合は比較しないが、洋書の場合は電子を優先する。</p>
<p>両方ではないのですが、状況に応じて紙か電子か判断しています。両方購入することもあります、レアケースです。</p>
<p>使い分けできるから:紙一來館による貸出や閲覧 電子一学外(自宅や実習先)で閲覧</p>
<p>紙は選書基準、電子は DDA により購入しており、両者の重複を調整していない。</p>
<p>書庫の収容能力を考えながら選書している</p>

「教員からの要望」

<p>電子図書はコレクションや EBA で購入することが多いが、学生や教員からの単発の購入リクエストには購入手続きの簡単な紙図書を購入するようにしています。</p>
<p>教員および各学科からの要望により、必要な方を選択</p>
<p>教員の発注(紙か電子)に基づき発注しているため</p>
<p>2)で述べさせていただいた通りとなりますが、基本は、紙媒体を選択しますが、学科別推薦図書にて、教員より電子にて推薦があった場合は、選書基準に合致しており、選書理由に正当性があると認められた場合、電子にて購入します。</p>

「資料の種類、内容」

<p>基本的には紙だが、共通分野の資料ならば電子で購入することも増えたため</p>
<p>資料の内容等から、冊子のみ、電子のみで購入する場合がありますが、シラバス指定図書の場合は冊子と電子の両方を購入するようにしています。</p>
<p>選択肢が限定的ですので、両方にしていますが、両方購入しているという意味ではなく、内容により買っているという意味です。</p>

「大学の事情」

<p>キャンパスが2つに分かれているため、分野によっては、両方を購入する場合があります。</p>
<p>実習先など校外で調べ物をする際に閲覧できる電子書籍と、じっくり理解するには紙媒体が必要だから。</p>
<p>本学は3キャンパスあるため、必要な資料は複数購入している。</p>

「出版状況」

本来は電子で購入したいが、紙よりも電子の発行が遅いため、紙で購入している
電子の価格が安い場合

5) 紙の書籍と電子書籍の購入比率(2022年度実績)をお聞かせください。

(例: 紙8対電子2)

紙の書籍と電子書籍の購入比率に関しまして、各館から冊数や購入額などの比率で回答をいただきましたが、すべて当館で全体を10とした割合に置き換えて集計した結果、下記の通りとなりました。なお、冊数と購入額の両方を回答いただいた場合には冊数で集計しています。

総回答 172 館

紙10(電子書籍購入なし)	41 館(23.8%)
紙9以上10未満	102 館(59.3%)
紙8以上9未満	20 館(11.6%)
紙8未満	9 館(5.3%)

(数値以外の主なコメント)

当館では電子書籍は購入しておらず、データベースに収録されているもののみを利用しています。
購入点数では紙 38 対電子 1 ですが、購入金額としては紙 13 対電子 1 となります。
ほとんど紙の書籍です。学生選書などで、特に電子の希望がある場合のみ、電子書籍を購入しています。
ほぼ紙の書籍を購入しています。電子は、1割以下です。
電子書籍の購入は、2021年度開設の1学部のみのため、紙の書籍での購入が主である。
ほぼ受け入れていない(2022年度実績は1)
ほぼ紙の書籍で、一部の学部で授業テキストを教員が電子書籍で購入しています。
購入のほとんどが紙の書籍で、電子書籍は数点のみでした。
冊数では紙 8 対電子 2 予算的には紙 6 対電子 4
紙 9 対電子 1(紙は資産化資料のみ、電子は電子リソースのうち電子書籍のみ)
紙 99 対電子 1(本学の場合、電子ブックの大部分を中央図書館が購入しているため。)
紙 10 対電子 2 2022年度は助成金にて購入のため
冊数では、紙 8 対電子 2 の割合であるが、購入金額では、紙 6 対電子 4 の割合となる。
紙 5 対電子 5
e-book は、サブスクリプションなどが中心で、正確な比率は算出できない。
比率は出していませんが、紙の方が多いです。ただ、和書については電子と冊子の重複を可としているため、電子書籍も相当な数購入しています。
電子書籍の購入については試行段階

6)紙の書籍と電子書籍で予算を分けておられますか。

総回答 172 館

わけている 44 館(25.6%)

わけていない 128 館(74.4%)

7)実践されている電子書籍の利用促進策をお聞かせください。

(主な回答)

「ガイダンス、オリエンテーションなどによる利用指導」

図書館ガイダンスでの紹介
図書館利用ガイダンスでの案内
ガイダンスでの資料紹介、各種配付物での告知、等
文献調査ガイダンスで紹介している
ガイダンス時に照会したり、ポスター作製をして呼びかけている。
図書館ガイダンス中に案内している
ガイダンスでのアナウンス
ガイダンスでの指導、OPAC からのアクセス可等行っていますが周知が不十分と感じています。
後期の図書館ガイダンスで利用させている
ガイダンスによる説明
(データベースのものになりますが)ガイダンス等での紹介
図書館ガイダンスで紹介、館内で書影やリストを展示
ホームページへの掲載図書館ガイダンスでの案内
情報検索ガイダンスの内容に電子書籍を利用する方法を含める。
ホームページや図書館利用指導のガイダンスにおいて紹介している程度である。
図書館ガイダンス及び図書館 WEB ページによる周知
各種ガイダンスで利用方法の案内をしています
図書館利用ガイダンスで案内している
図書館ガイダンスで電子書籍の案内、利用促進を行っている。
図書館オリエンテーションで利用方法を説明
オリエンテーションでの利用説明
オリエンテーション時での説明や窓口での資料配布など
オリエンテーション時の案内及び案内文書の掲示
オリエンテーション、利用指導での説明
オリエンテーションにて紹介しています
リモートアクセスでの利用方法について案内したり、オリエンテーションで電子書籍も使えることを案内している。本学では紙の方が使いやすいとの意見が多く、特に利用促進を図っていない。

図書館での講習利用指導時の案内
利用説明会の実施
図書館等での利用促進説明会の開催。
利用説明会の開催
図書館の文献検索講習会等で、電子書籍についてもPR。
図書館利用講習会での利用案内、利用方法指導。
利用登録促進のため、利用登録説明会を開催しています。
利用案内の時に利用方法を説明、その時に動作を行っています。
年2回の全学生を対象とした講習会時に案内
ガイダンスで実習
ライブラリーツアーやホームページにて、利用促進
ガイダンスでの告知、発注者への授業利用の呼びかけ
ガイダンス、授業での利用説明

「QRコード」

タイトルにQRコードを付けたポスターを作成し、掲示を行っている。
ホームページ上での周知と、書架にQRコードで検索画面へジャンプする案内をしている。
新刊受入時に学生への周知メール送信、図書館や学生ホールエレベータ前等にQRコードを掲載した新刊案内の掲示
今年度から電子書籍コーナーを設置し、企画展示を行っています。(リンクのQRコードを展示)
カウンター付近に各タイトルの紹介しQRコードでタイトルへリンクできるようにパッケージを作成、利用ランキングの設置
一部の電子書籍を対象に、QRコードと書影をセットにして掲示。
紙媒体の資料の近くに、電子書籍のアクセス用QRコードを置いています。また、電子書籍の展示を実施しています。
(1) 図書館報にて、電子書籍の活用方法をQRコードと共に紹介している。
紙の書籍展示の新着展示スペースへ新着電子書籍のチラシ(書影、QRコード付き)を貼付し周知している。
各電子書籍は紙の書籍と同様に分類し、電子書籍の案内を表示した見出し(書名、書影、QRコード)を作成。その見出しを書架に排架している。(書影は Maruzen eBook Library 掲載のものを使用。使用について確認済み)
ホームページへの掲載、メール配信、QRコードを別棟や書架等に掲示
館内掲示、新着図書案内への電子書籍QR掲載
学内掲示板にポスター、館内特集コーナーに書影とQRコードを掲示、書架に差し込み版で案内し、学生の目にとまりやすいようにしている。

QRコード付きの掲示物や持ち帰り用カードの作成、ガイダンスでの紹介を行っています。
QRコードを配付、お昼休みのワークショップで紹介など
新着案内をQRコード付きで展示
書架に電子所蔵QRコードを提示。
QRコードの葉を掲示
個々の電子書籍のQRコードを作成し、配布した
学内電子掲示板で案内、図書館ガイダンスで紹介、QRコードを付与したPOPを展示
館内に電子書籍案内(タイトルリスト、QRコード等)用ホワイトボードを設置している。

「授業、教員との連携」

今年度から、図書館担当の授業の中で電子ブックを読む時間を作り、実際に操作等を体験してもらいました。
教員へ授業時の配布用のチラシ提供(授業科目ごと)
授業などで紹介
新着リストをホームページで公開する。また、その旨を全学生教員にメールで案内する。
図書館業務に関わる教員を通して学生に周知。
学科教員より学外実習時の便利な使い方として電子書籍リモートアクセス閲覧を紹介してもらっている。
Webサイトや利用案内への掲載、館内掲示。担当教員を通して学内に周知。
外国語科目の教員に、ゲーム形式で使用してもらうため多読を増やした。
定期的に利用方法等を広報。授業で教員に紹介してもらう(例:英語の多読書)
シラバス掲載図書を電子で購入し、担当教員に学生への案内を依頼する
学科と連携しての利用案内(特に看護学科等実習の多い学科では、来館せずに利用できる電子書籍を利用推進している)
司書課程の実習で、電子図書館の中からテーマを決めて10冊程度本を選び、おすすめのパンフレットを作成して館内に展示し、システムでも「特集」の情報として提供
学期始まりの各学科オリエンテーションで紹介
講義での紹介
電子書籍の利用講習会の開催。(学科からの希望により講義時間内の一部でパソコン教室にて開催)

「ホームページ」

図書館ホームページ(電子ジャーナル・電子ブックサイト)で公開、図書館内での新刊情報として公開
図書館HPに特設ページを設置
新着リストをホームページで公開する。また、その旨を全学生・教員にメールで案内する。

図書館 Web ページでの紹介、活用推奨。
英語多読系リストをホームページに掲載し、利用を促進している
図書館ホームページで告知
利用講習会や図書館ホームページの電子ブック専用ページでの案内
図書館ホームページにバナーを掲載
多読本の案内ページを用意している。

「掲示」

図書館内及びキャンパス内他の施設(カフェテリアなど)のサイネージを活用して電子書籍を紹介したり、ポスター掲示や図書館運営委員会委員の先生への働きかけ、が主な対策となります。先生から学生への働きかけが効果的だと思料しますが先生自身が電子書籍の活用に積極的でないのが現状です。他大学の対策を参考にさせていただきたいと思います。
館内に掲示物を用意しています。関連するジャンルの書架に電子書籍のチラシを用意して、利用を促しています。
ポスター掲示
掲示物、等
館内の複数個所に案内ポスターを掲示
図書館入口前電光掲示板での周知と HP および図書館内設置のチラシによる利用案内
閲覧席に、学習(レポートの書き方等)に役立つ本や、息抜きになる本なども含めて、電子書籍を紹介する POP を掲示している。
掲示での案内
冊子の多読コーナーに電子ブックもあることを掲示。
図書館内でのタイトルや利用方法の掲示
所蔵している電子書籍は分野がまとまっているので関連書架に電子書籍もあることをポスター等で掲示している。
HP で告知、館内ポスター掲示

「選書・購入希望」

本年度より図書館WEBサイトに「新着電子ブック案内」を掲載しています。また昨年に引き続き「オンライン学生選書キャンペーン」を実施し利用促進に繋がります。
購入希望の募集を兼ねた案内
利用者の購入申込に際し、「電子書籍」の希望有無を確認するなどしています。
学生へのリクエスト募集
Web 選書開催での登録説明
選書時 電子書籍があれば優先的に購入するよう努めている。

就活本や資格問題集などを電子書籍で購入し、関係のある学部や学年の学生へ、一斉メールでお知らせしています。
まずは、資格関連書籍の電子書籍の購入を促進し電子書籍の利用頻度を高める

「試読サービス」

試し読みトライアルの実施をしています。
試読サービスの導入、そのことの広報
試読サービスハイブリット型の選書ツアーの実施
電子書籍試読サービスを用いたブックハンティングイベントの実施
春学期と秋学期に各書店が提供する電子書籍の全文試し読み購入リクエストサービスを開催し、利用普及を目指している。 対象者は本学の学部生大学院生。 コロナ禍やオンライン授業等を背景にコンテンツへのアクセスは増加傾向が見られたが、プラットフォームが複数に分かれたり、紙が良いという意見もあり、導入後の利用促進や運用面で課題があると感じている。 紙の代替としてではなく、電子ならではの価値を評価し、図書館として来館型非来館型両方のサービスを展開していく必要がある。
広報等での案内、試読リクエストサービスの実施
ProQuest Mediated DDA 等の試読型選書システムを利用している。
試読が可能なプラットフォームでは、試読を実施してリクエストをしてもらい、利用者のニーズを反映させている。
電子ブック無料トライアルの実施

「OPAC」

OPAC にて文献情報検索からリンク先を案内しています。
OPAC で検索できる。
OPAC で検索結果から直アクセスできる。
電子書籍は、OPAC にて紙の図書と同様に検索できるようにしており、OPAC から本文リンクに飛べるようにしている。
リンクリゾルバによって、「OPAC」にて、検索閲覧できるようにしている。
掲示の工夫、OPAC の複数箇所にリンクをつける 等(上手くいっているとは言い難いです)
OPAC からリンクを貼るなど
図書館システムに登録し、OPAC の検索結果からリンクにより利用できるように設定
HP 掲載、OPAC にバナー貼付
OPAC からのリンク設置

「配布物(広報誌、マニュアル)」

図書館報での紹介。
アクセスマニュアルを毎年利用者に向けて案内している
利用ガイドを作成。
図書館広報誌で電子書籍の利用方法や購入したタイトルを紹介したりしている。
利用方法の簡易版を作成し掲示により周知
図書館 HP、メールマガジン、掲示、広報配布物
ハンドアウトの作成、
会議、広報誌、ポータル掲示
学内広報誌による紹介
学内のデジタルサイネージで、新着電子書籍の紹介(書影)を流している。

「展示」

学生ボランティアによる選書とテーマ展示
これまでに受け入れた電子書籍の情報(書影)を学科ごとに分けてファイリングし、展示している。
テーマ展示で電子ブックを入れて紹介する。
企画展示の際に、電子ブック版も見てもらうために、電子ブックの使い方のフリーペーパーを準備し、配布している。
利用教育での広報、特定テーマの図書館の広報(展示や Web サイトでの特集)時に、当該テーマの電子書籍も合わせて広報
企画展示
定期的にコンテンツに関する案内を配信(学生教職員対象)したり、掲示、展示をしている。

「新入生への利用指導」

1年の必修科目の課題と紐づけて必ず読むように計画の上、ガイダンスや授業で利用方法の説明の機会を設けている。
新入生図書館オリエンテーション(全員参加)で周知している。
新入生対象の図書館ツアー(図書館見学と利用案内)で電子書籍の紹介と利用法の説明
新入生オリエンテーションで紹介、利用案内を掲示
新入生向けガイダンスでの紹介
初年次教育との連携
全新入生に対して学科毎に説明会(図書館ツアー)を実施している中で説明をしている。
新入生オリエンテーションで紹介、利用案内を掲示

「他部署との連携」

資格系や就活系のものもあることをアピールしたチラシを、就職支援部に置いてもらっている。
就職部にポップ掲示
就職部との連携等
学内他部署との連携を模索中。

「学内ポータル」

UNIVERSAL PASSPORT による学生への周知。
ポスターや利用方法のパンフレットを設置、UNIPA 等で定期的に案内を配信
ユニバーサルパスポートでの周知(新刊案内・利用方法など)、学内掲示板ポスター、セミナーでの案内
学内ポータルでの利用告知
学内ポータル等での案内程度。
学務情報システムで周知

「メール・SNS」

電子書籍の利点(特に学外利用が可能な点)をアナウンス(学生・教職員へメールなどでお知らせ)
メールでアナウンスする程度です。
HP や Twitter での広報。
SNS による情報発信

「学外利用」

学外利用方法の整備。
EZproxy で学認を利用して学外利用の便宜を図っている。
学外からも利用できるようにしている
学認新規導入
学認の導入
昨年度は積極的に電子書籍の購入はしなかったが、VPN 装置を更新したため、今年度は積極的な購入を予定している。Twitter や大学 HP,図書館 HP 等で広報する予定。

「システム(OPAC 以外)」

電子書籍未導入・洋書電子ブックシリーズのみ購入のため、オンラインジャーナル検索と同じところから利用できるようにしている。
電子図書館の構築
ディスカバリーで書誌を検索できるようにしたうえで、通年で EBA および DDA を実施している。

検索データベースポータルサイト経由の利用
別システムの電子図書館は、ホームページ上にリンクバナーを設けている。
別システムのトップ画面の到着情報は、できるだけ貸出可能な新しいタイトルを表示

「イベントの実施」

昨年、紀伊國屋書店と丸善雄松堂の協力のもと、ブースを設置して電子ブックフェアを開催した。
ブックハンティングでの利用
読書週間に電子書籍を利用したイベントを行いました。また、利用方法についてリーフレットやスライドを作成して案内しています。
イベントなどで課題の1つに、電子書籍を借りることを取り入れた(スタンプラリー)

「利用案内動画」

電子ブックの利用案内動画(人工音声付き)を作成し、ホームページで公開している。
利用促進動画の作成
大学図書館 HP での動画リンク
利用案内動画作成

「その他」

図書館内外で電子書籍は閲覧でき、さらには書架スペースの問題も解消できるので、積極的に利用を進めていきたい。
導入したばかりなので、現在周知に努めている。
電子書籍の購入をはじめたばかりなので、これから利用促進をしていく予定。
利用講習会の実施について、現在検討中です。
検討中です。
現在、模索中
電子書籍の冊数が少ないこともあり、今は特に何も行っていませんが、広報は行っていかなければならないと思っていますところ。
利用促進策はありません。
まだ電子書籍の導入(購入)は行っていません。
本館は電子書籍は今のところ採用しておりません。

8) 電子書籍を利用する環境(学外からのアクセス可否、運用しているシステム)についてお聞かせください。(複数回答可)

VPN 接続による学外利用	44 館
リファラ認証による学外利用	41 館
学術認証フェデレーション(学認)による学外利用	29 館
EZproxy による学外利用	10 館
RemoteXs による学外利用	8 館
その他のシステムによる学外利用	44 館
学外利用不可(電子書籍未購入含む)	42 館

3つのシステムを運用	7 館
2つのシステムを運用	33 館
1つのシステムを運用	90 館
学外利用不可(電子書籍未購入含む)	42 館

【所感】

ご回答から電子書籍の購入、選書と運用に関する加盟館の状況や、利用促進のために実践されている様々な取り組みについて明らかにすることができました。

各設問の所感については以下のとおりです。

問1) 電子書籍独自の選書基準を設けている加盟館は11.6%で、未だ少数であることがわかりました。

問2) 問1の結果と関係して電子書籍の選書基準は紙の図書の選書基準と同様であるという回答が多くありました。紙の書籍と異なる点や注意している点については、図書との重複を避けることや買い切りの電子書籍を購入すること、教員・シラバスとの関連に重点を置いているといった回答が多くみられました。

問3) 購入図書が紙と電子の両方で出版されている場合については、紙を選択するという回答が過半数を占めていました。しかし、電子を選択(14.5%)もしくは両方とも選択(19.2%)するという回答も、両者を合わせると3割強ありました。

問4-1)、-2) 電子書籍を選択する理由で最も多かったのは書庫の狭隘化対策でした。加盟館共通の課題である資料の収容力問題の解決策の一つとされていることがわかりました。また、辞書などの禁帯出資料や、利用頻度の高い図書は電子書籍を選択するといったように、電子書籍の特長を活かした使い分けをされている加盟館が多いこともわかりました。

問5) 紙と電子の購入比率については9割以上の加盟館で紙の書籍の購入比率の方が高く、紙の書籍中心であることがわかりました。しかし、極めて少数ではありますが電子

書籍の購入比率の方が高い加盟館もありました。今後、紙と電子の比率がどのように変わっていくのか注視していきたいと思います。

問6) 紙と電子の予算を分けているのは全体の25.6%でした。予算を分けることのメリット・デメリットなどについても今後お伺いできればと思います。

問7) 電子書籍の利用推進策については、ホームページ、ガイダンス・オリエンテーション等利用指導、掲示などを中心実施されていることがわかりました。一方で、とくに「利用推進策を行っていない」と回答した加盟館も30館近く見られました。QRコードの活用、教員や授業との連携、新入生への働きかけや利用推進イベントの実施など電子書籍の利用促進を図るための具体的な取組みは、本学を含め推進策を検討中の加盟館にとって大変参考になるものと思われます。

問8) 本学では電子資料のさらなる利用促進策として、リモートアクセスシステムを利用した学外利用を考えています。今回の回答では、「VPN」、「リファラ認証」が多く、次いで「学術認証フェデレーション(学認)」となっていました。一方、「その他のシステム」という回答も44館あり、多様なシステムを活用されていることがわかりました。

今回の結果を参考にさせていただき、本学における電子書籍の選書基準策定など制度を整えると同時に、利用促進のための取り組みも強化してまいります。

ご協力いただき誠にありがとうございました。